

ボランティア活動特集

本学では、教育目標実現のため、「自ら考え、行動する自己完結型ボランティア活動」を積極的に推進しています。

昨年度は、ボランティア活動に延576名もの学生が活動を行っています。

「視覚障がい者マラソン大会ボランティア」

心理コミュニケーション学科

3年 中村 琴乃



全国的にも人気のある長野オリンピック記念マラソン大会の視覚障がい者の部のボランティアを行いました。活動内容は、担当の視覚障がい者の方がゴールした後から表彰式までの全般のサポートでした。ゴール後、伴走者から引き継ぎ、記録所へのアテンド、着替えのお手伝い、表彰式への参加など、障がい者の方をサポートしまし

た。はじめは何をしてよいのか戸惑うことばかりでしたが、不安にさせないようにできるだけ声をかけることを心がけました。どこまでサポートすればよいのか手探りの活動でしたが、徐々に必要以上に構えなくてもいいのだということがわかってきました。困っていたら手を差し伸べる、同じ目線に立ち何をしたらいいのかを考える、ごく普通で当たり前のことを改めて考えさせられるボランティアでした。このボランティア経験をいかし、障がい者に関する知識を身に付け、今後も様々な活動にチャレンジしたい。

放課後子どもプラン アドバイザーを通して

幼児教育科 2年 谷口 優希



昨年の夏から放課後子どもプランアドバイザーとして、長野市内の児童センターで小学1〜3年生の児童と関わりました。その中で、乳幼児とは異なる小学生との関わり方を学ぶことができました。たとえば、男の子は学生の私が気になるの

か、遊びに誘うのではなく、いたずらをして気を引こうとします。反対に女の子は、素直に遊びに誘います。乳幼児であれば男の子も女の子も素直に遊びに誘いますが、小学生になると照れなどが出てきて男の子との対応が難しくなります。私もこちらから話かけたりと工夫をすると、男の子も照れくさそうに一緒に遊ぶようになりました。

私は保育士になるところを目指し学んでいます。園児から児童になる小学生の関わりを学生時代に体験できることは、少なからず今後の学びにプラスになると思いこれからも続けていきたいと思っています。毎回子どもたちの新しい発見があり、乳幼児との関わり方の違いを学んでいます。

サポーターをサポートする —AC長野パルセイロ ボランティア

国際コミュニケーション科

1年 塩原 愛美

以前からサッカーが好きで、最初のボランティア活動はAC長野パルセイロのホームゲームボランティアと決めていました。活動した日は、初めての地元長野市の開催。またゴールデンウイークということもあり、運営スタッフの予想をはるかに超す8000人以上のサポーターが応援に駆けつけました。そのため想定外の出来事もたくさん起

今年度実施したボランティア活動

- ・千曲市杏まつり (4.12、13)
- ・長野マラソン車いすマラソンの部受付 (4.19)
- ・長野マラソン大会及び視覚障がい者マラソン (4.20)
- ・信州プレイブウォリアーズホームゲーム (4.26)
- ・盲導犬育成募金活動 (4.26、27)
- ・臥竜山ウォークラリー (5.17)
- ・長野市障害者スポーツ大会 (5.18)
- ・須坂市ニュースポーツフェス (5.18)
- ・児童スポーツ教室 (5.21、22)
- ・長野地区障がい者スポーツ大会 (5.24)
- ・老人ホームイベントボラ (6.14)
- ・フロアホッケー大会 (6.14)
- ・緑の自転車塗装ボランティア (6.18)
- ・ボランティア支援金審査員 (6.28)
- ・AC長野パルセイロホームゲーム (HG 毎回)
- ・長野市放課後子どもプラン (通年)
- ・更級小学校放課後子ども教室 (通年)



こりましたが、無事終えることができました。チラシ制作や会場案内・チケットもぎ等様々な活動をしましたが、運営スタッフ

ろ起こっていることを肌で感じる事が出来ました。将来、AC長野パルセイロもJ1の舞台に立つことを夢見て、少しでも選手やサポーター力になれるよう、これからも積極的にボランティア活動に参加していきたいと思っています。

H26年度清泉女学院 復興支援プロジェクト説明会

去る5月29日、今年度の復興支援プロジェクト説明会を開催し、多くの学生が参加しました。

全国的に復興支援ボランティアも減少してきている中で、本学は長いスパンで支援をしています。また、過去3年間の活動を意味あるものにするためにも、学生の自主性を引き出し意欲的に活動できるようにサポートしていきま

